

釜ヶ崎と住宅問題 (2)

— 調査資料の紹介を中心とし —

## 釜ヶ崎と住宅問題（2）

### — 調査資料の紹介を中心として —

原 和博

1) 以下の報告は、「釜ヶ崎資料 第2号」に掲載された「釜ヶ崎と住宅問題」という報告の続編として、1985年10月に釜ヶ崎日雇労働組合によって行なわれた釜ヶ崎労働者に対するアンケート調査から得られたデータの紹介と、それに基づく若干の分析を試みたものである。

このアンケート調査は、現在の釜ヶ崎労働者が置かれている劣悪、過酷な住宅状況の諸側面を明らかにし、更にはそうした状況を突破するための闘いの方策を見出すために企画され、実行されたものである。1984年5月の調査がドヤの経営者や管理者に対する聴き取り調査であり、その目的は、前号においても述べたように、もっぱら現在の釜ヶ崎の住宅状況のその客観的諸側面を明きらかにすることであったのに対して、今回の調査においては、現実に問題を日々苦しみ、生活している釜ヶ崎労働者のいわば主体的状況を明きらかにすることが目指された。

そして、この調査には260名強の労働者の協力が得られた。（そのうち、有効回答票数は244。）これらの労働者の回答の内に、私達はどのような現実を読み取ることができのだろうか。資本主義社会が続くかぎり住宅問題を始めとする社会問題が解決されることはけっしてない、と述べたのはエンゲルスだが、たしかに土地価格の高騰やローン地獄といった「病理的」、問題的諸現実が私達の周囲には山積している。そしておそらく、釜ヶ崎の住宅問題もこの「豊かな」社会におけるそれと無関係ではないはずである。というよりも、むしろ前者のうちにこそ問題の本質はより明瞭に露呈しているのではないか。日々、雨露をしのぐためだけにドヤという名の棺桶のような狭い空間を捜し歩き、そしてその空間を一夜確保するために、1000円、2000円という高い料金を支払わなければならないといった、釜ヶ崎の労働者が直面している諸現実を無視しては、私達はいかなる「住宅問題」についても語ることはできないだろう。

以下に報告するデータ、資料、「分析」がこうした諸現実の認識のために役立つならば幸いである。

\*\*\* 調査の概要 \*\*\*

この調査は釜ヶ崎地区内の簡易宿泊所（通称ドヤ）に宿泊する労働者（そのほとんどすべては土木建築作業に従事する日雇の労働者である）を対象として、以下のような質問項目からなるアンケート用紙にもとづいて行なわれた面接聴き取り調査である。その結果さきにも述べたように、244票の有効回答票が得られた。質問項目は以下のとうり。

(1) 今泊まっているドヤについて。

(a) ドヤ名 (b) ドヤ代 (c) その広さ (d) テレビの有無、その種類、使用料 (e) 電気代、水道料金

(2) 年末のドヤ代前払について。

(a) 昨年何日前払したか。 (b) その時のドヤ名 (c) その時払った料金の額 (d) それは12月の何日頃のことか。

(3) これまで年末年始に金があるのにドヤに泊まれなかった経験があるか。

(a) その理由 (b) それは12月何日頃のことか (c) そのとき何軒ぐらいのドヤをまわったか (d) その後どうしたか

(4) 今泊まっているドヤのドヤ代は、量らぐらいが妥当であると思うか。

(5) これまでにドヤの経営者や管理人とのトラブルの経験はあるか。

(6) これまでに泊まったドヤのうちで、最も悪いと思うドヤはどこか。またそう思う理由。

(7) 最も良いと思うドヤ、およびその理由。

(8) ドヤに対する要求は？

(9) 現在、準備整らで聞いているか。またその種類は？

以上のような質問項目についてのアンケート調査から得られた諸結果の中から、この報告では、(1) - (b) の「現在泊まっているドヤのドヤ代」、(1) - (c) の「その広さ」、(2) - (a) の「年末の前払日数」、(2) - (c) の「その時支払ったドヤ代」、(4) の「妥当だと思うドヤ代」、(5) の「トラブルの経験の有無」、(8) の「賃銀」という7項目についての集計結果を紹介する。その他の項目については、現在まだ作業が進行中であり、その作業が終了次第、本資料集で報告する予定である。それゆえ以下の報告は中間報告にすぎない。

\*\*\* 集計結果の概要 \*\*\*

単純集計の結果は以下のとうりである。（なお、これ以後は記述の都合上、質問項目の8をQ1、1-bをQ2、1-cをQ3、2-aをQ4、2-cをQ5、4をQ6、5をQ7、と略記する。）



(ま-1)

項目	回答数	合計	平均	N. A 他
Q1	220	1918700 (円)	8721 (円)	24
Q2	234	253880 (円)	1084 (円)	10
Q3	238	5608 (量)	23 (量)	6
Q4	181	1747 (冊)	9 (冊)	63
Q5	151	1649530 (円)	10924 (円)	93

(ま-2-a)

項目	具体的な金額を挙げた者	ただ「高い」と答えた者	「妥当」と答えた者	N. A. その他
Q6	110 (人)	23 (人)	60 (人)	51 (人)

(ま-2-b) [Q6] の「具体的な金額」の合計と平均

回答数	合計	平均
110	89150 (円)	810 (円)

(ま-3)

項目	「トラブルの経験あり」と答えた者	「経験なし」と答えた者	N. A. その他
Q7	59 (人)	116 (人)	69 (人)



(表-4)

〔Q 2〕(下ヤ代)の内わけ

0~400(円)	~500	~600	~700	~800	~900
7(3.0%)	13(5.6)	25(10.7)	14(6.0)	17(7.3)	30(12.8)
~1000	~1100	~1200	~1300	~1400	~1500
20(8.5)	8(3.4)	13(5.6)	7(3.0)	11(4.7)	32(13.7)
~1600	~1700	~1800	~1900	~2000	2000~
20(8.5)	7(3.0)	3(1.3)	0(0)	4(1.7)	3(1.3)

(表-5)

〔Q 3〕(下ヤの広さ)の内わけおよびその料金の平均

広さの内わけ	総数 (人)	比率 (%)	合計 (円)	平均 (円)
1畳以上2畳未満	69	30.1	50050	725
2畳以上3畳未満	60	26.2	65980	1099
3畳以上4畳未満	83	36.2	109500	1319
4畳以上	17	7.4	22100	1300

\*\*\* 簡単な分析 \*\*\*

[1]

以上のような集計結果から、私達は釜ヶ崎の「住宅問題」状況についてどのような認

識を得ることが出来るだろうか。1983年8月に釜ヶ崎日雇労働組合と釜ヶ崎差別と闘う連絡会とによって行なわれた「釜ヶ崎実態調査」の諸結果と比較しながら若干の分析を試みてみたい。

まず収入と居住費について。83年調査当時の賃銀は、その最頻値で見ると、1日7000円、平均的就労日数が14日で、それに認定10日分を加算して、月収14万弱と推定された。(これらについては、釜ヶ崎差別と闘う連絡会発行の「釜ヶ崎と人権—83年8月釜ヶ崎実態調査報告」を参照。以下同様。)これに対して、85年においては前表からもわかるように、平均賃銀は1日あたり8700円、認定の額も6200円とアップしているので、就労日数と認定受給日数が等しいと仮定して、その月平均収入を推定すれば、約18万4000円程となる。今回の調査は、ドヤ居住者のみをその対象とし、それに対して83年調査の対象者の中には数多くのアオカン労働者が含まれていたのがあり、それゆえ前者ではその収入がかなり高めに、そして後者ではそれがやや低めに出てきたと考えられる。それゆえ、この数字から単純に、わずか2年強の間に釜ヶ崎労働者の収入が4万円以上も上昇したと判断することは決して出来ない。とは言え、釜ヶ崎労働者の収入がその金額で見るとは増大した、ということもまた確かである。ただ問題はその増大が実質的なものであったかどうかということである。

それを判断するために、ここでは83年と85年の住居費を比較してみよう。83年のドヤ代の平均は886円、それに対して85年のそれは1084円となって、約22%の上昇である。全収入に占める、居住費の割合は、前者が19%、後者が18%弱となっている。先に述べた、調査対象者の層の違いを考慮にいれるならば、少なくとも住居の獲得という面においては、その経済的負担は全体として見ればほとんど軽減されていない、といえるだろう。

もちろんこの居住費の経済的負担は、各労働者の収入の多寡によって違ってはくるであろう。そこで収入とドヤ代との間の関係を見てみよう。次の表(表-6)は、収入区分ごとにそれぞれのドヤ代の平均を調べたものである。この表から見れば、確かに労働者の収入と彼らが利用するドヤのドヤ代との間には一定の正の相関があるようである。すなわち収入が多い労働者ほど高いドヤに泊まる、という傾向はあるようである。しかしこの相関はそれほど強いものではない。釜ヶ崎の平均的労働者(すなわち、いわゆる「現金」仕事によって日々の生活費を稼いでいる労働者。下の表でいえば、9000円未満のグループ。)のドヤ代の平均が1000円強であるのに対して、日当10000円以上の労働者(これはおそらく「直行」「職人」層であると思われる)のそれが1200円強なのであるから、賃銀の差ほどにはドヤ代に開きがない。

このことは、一方では、ドヤ代の負担が低所得者にとってより重くなっているということの意味しているであろう。そして、釜ヶ崎の労働者の圧倒的大部分がこの低所得層に含まれているのである。そして、もう一方ではこのことは、釜ヶ崎においては住宅選択の幅

が絶対的に狭いということをもあらわしている。いくら金があっても、気にいった良質のドヤを見つけられない、といったことは釜ヶ崎の労働者が日常的に経験しているところがある。その根底には、行政の無策による住宅の絶対的不足という現実が厳然として存在しているのである。

(表-6)

収入区分	回答者数 (人)	ドヤ代総額 (円)	ドヤ代平均 (円)
8000円未満	8	8800	1100
9000円未満	144	144710	1004
10000円未満	19	22350	1176
10000円以上	40	50670	1266

このことが最も如実に現象するのが、年末年始、お盆の時期である。この時期には、1年の大部分を飯場で過ごしている労働者も釜ヶ崎へ帰ってくる。そうするとたちまちドヤはどこも満員となってしまう、その結果どこにも宿泊できずにアオカンを余儀なくされるといった労働者がこの時期には大量に出現することになるのである。更には、このようなドヤの絶対的不足という現実につけこんで、ドヤの経営者達はやすやすと値上げを行なえるのであるし、また、年末には労働者にドヤ代の前払を要求するといった事も行なえるのである。

(表-1)の項目Q4とQ5は、この年末の「ドヤ代の前払」について尋ねた結果の集計であるが、それによれば釜ヶ崎の労働者は年末には平均で9日分のドヤ代、金番として10924円を支払っている。年末年始の仕事の無い時期に10000円以上の金を前払することは、決して容易なことではない。もし前払できないならば、寒空のもとアオカンする以外に方法はないのである。(とりわけここ数年、行政改革の名のもとに年末年始の無料臨時宿泊所の入所人員が大幅に削減されているので、状況は更に酷くなっている。)

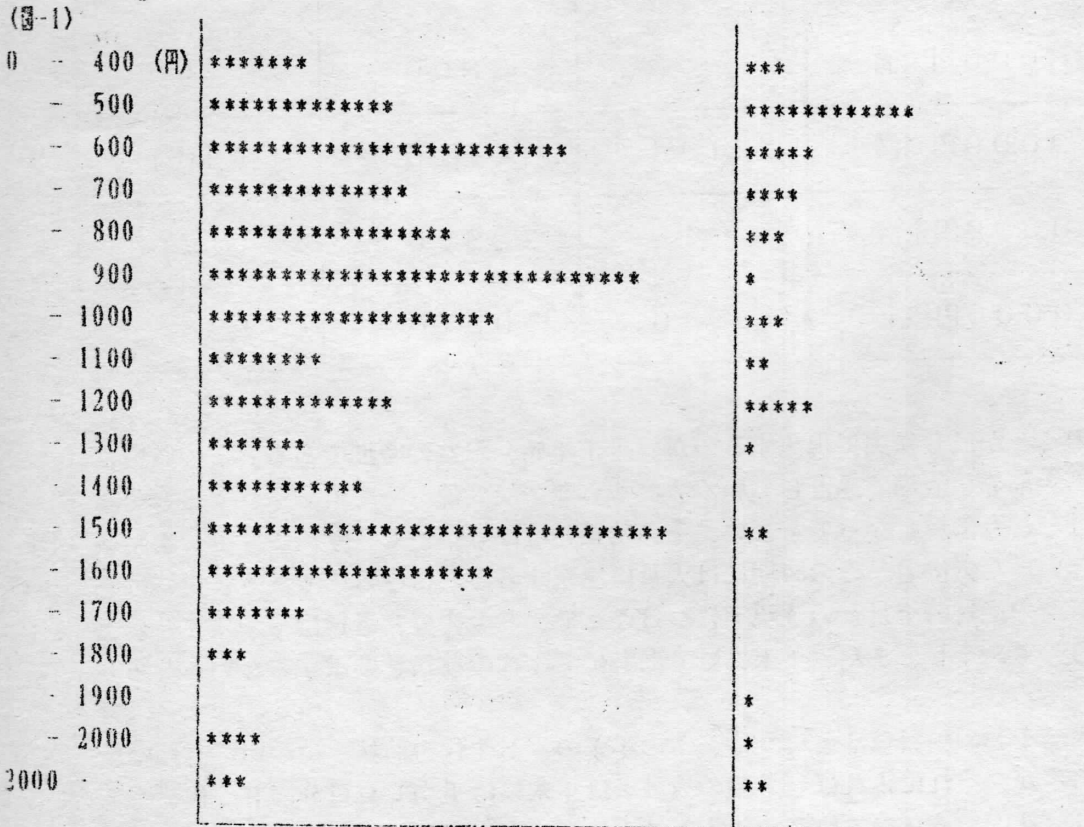
このことからわかるように、釜ヶ崎の大きな問題のひとつである「アオカン」問題は決して個々の労働者の勤労意欲や能力の問題ではなく、住宅政策をも含めた行政のありかたに、さらには社会の構造的な仕組みそのものと密接にかかわっている問題なのである。



[ 2 ]

以下、もう少し詳細に現在の釜ヶ崎のドヤ状況と、それに対する労働者の対応といったものをを見てみよう。

次の(図-1)は、(表-4)「ドヤ代の内わけ」を見易くするためにグラフ化したもの(左図)であり、同様に右図は1983年調査の報告書の(表-11)をグラフ化したものである。



(85年調査におけるドヤ代の分布)

(83年調査におけるドヤ代の分布)

83年調査においては対象者の数が少ないのではっきりとは分からないが、85年の調査結果からは(左図)、ドヤ代の分布に2つの山があることが明確に読み取れる。ひとつは、600円台から900円台にかけての山であり、もうひとつは1500円台を中心とする山である。このことは不明瞭にはあるが、1983年調査のそれ(右図)からもう

かがえる。すなわち、500円台と1200円台をそれぞれ中心とする2つの山がそれである。83年から85年にかけての2年間で、500円が600～900円へ、1200円が1500円へとそれぞれシフト（値上がり）したということであろう。しかしこのシフトは、たんに低額ドヤと高額ドヤの2つの山が、いわばそのまま並行移動したといったものではないだろう。右図からもわかるように83年当時は低額ドヤの比率が高額のそれよりも圧倒的に高かったのに対して、85年においては高額ドヤの比率が大幅に上昇しているのである。すなわち、ここ2～3年のドヤ代の急激な高騰という現象は、一方ではドヤ代の全体としての底上げを伴いつつ、またもう一方では高額ドヤと低額ドヤへの2極分解を伴って進行しているのである。

そして、こうしたドヤ代の高騰の背景とも原因ともなっているのが、ここ2～3年においてきわめて顕著な、ドヤの建て替え、新築ブームである。（こうしたドヤの「高級」化とそれに伴うドヤ代の高騰という現象については、「資料集」2号を参照。）

### [3]

もちろん、このようなドヤ代の上昇にもかかわらずその設備や環境がまったく変わっていないというわけではけっしてない。それなりにドヤは改良、改善され近代化されてはいるのである。かつて大部分のドヤがそうであったような「起きて半畳ねて1畳」式のドヤは少数になってきているし（今回の調査では「広さ」の平均は2.3畳、「広さ」とドヤ代との間には明確に相関が認められ（表-5）、それゆえ高いドヤとはすなわち広いドヤのことであるとさえ言える）、また諸設備の面から見ても、この報告書の集計からは省いてあるが、たとえばほとんどのドヤが無料のカラーテレビを備えているし、内湯や炊事場が完備されていることをうたい文句にしているドヤも多いようである。更には、ここ1～2年に建設され、あるいは建て替えられたドヤでは、冷暖房の設備も備わっているようだが（もちろん、これらはドヤが代2000～3000円のきわめて「高級な」、ビジネスホテル風のドヤではあるが）。金網、鉄格子、中二階といったものも姿を消つつある。

それにもかかわらず、現在のドヤ代の水準は不当に高いのである。1泊のドヤ代の平均が1084円。これだけの金額を支払って得られるドヤの、その広さの平均は2畳強である。これは決して安くはない。室内にはほとんど何の設備もない、広さ2畳の空間を確保するために月に32000円以上の金を払わなければならないのである。このような現実を、実際にドヤで生活する労働者達はどのように考えているのだろうか。表の(2-a)は「今泊まっているドヤのドヤ代は、幾らぐらいが妥当であると思うか」という質問に対する回答をまとめたものである。表からも分かるように、現在自分が泊まっているドヤのドヤ代が妥当、適正なものであると考えている労働者はわずか60人、有効回答数の35%弱にすぎない。それ以外の労働者は、程度の差はあれ、今のドヤ代を高くすぎる不適正な

ものと見ているのである。

そこで、ドヤ代が「高すぎる」と答えた労働者（133人）と「妥当である」と答えた労働者（60人）の現在泊まっているドヤのその広さとドヤ代の平均をそれぞれ計算すると、前者が2.4畳で1216円、後者が2畳で815円となった。私達はこの数字を、たとえば、高いドヤ代を支払っている労働者は良質のドヤを求めているのにそれが得られず、安いドヤに泊まっている労働者はもはや住生活に関しては諦めてしまっている、という現実を反映しているのだと解釈することはできないだろうか。

一見するとビジネスホテル風の、外観だけは小ざれいに飾られたドヤがここ数年数多く建設され、また今も建設されつつある。そして、それに伴ってドヤ代は急激に高騰してきた。しかし、上昇したのは値段だけであって、ドヤの質そのものは値段の上昇に見合うほどは決して高くなってはいないのである。

少なくともそこで日常的に生活している労働者にとってはそうなのである。たとえば、「現在泊まっているドヤの、妥当と思えるドヤ代」と彼らが実際に支払っているドヤ代の差（Q2-Q6）の平均を求めてみると、それは442円となった。すなわち、彼らは実際には1200円以上のドヤ代を支払ってはいるが、しかしそのドヤは彼らから見ればせいぜい800円程度のドヤでしかないのである。「ドヤの経営者や管理人とのトラブルの経験はあるか」という質問に対して、「経験あり」という答えが有効回答数の3分の1にもおよんだ（表-3）という事実は、現在の釜ヶ崎のドヤ状況に対する根強い不満が労働者の間に潜在している、ということの現われではないだろうか。

\*\*\* 最後に \*\*\*

以上、きわめて簡単に1985年の「ドヤアンケート」から得られたデータに基づいて現在の釜ヶ崎の住宅問題の様相を概観してきたのであるが、これらからだけでもこの問題がきわめて深刻なものであることは了解されうるのではないか。それは決して、ドヤ経営者達のどん欲さや、行政当局の無能、無策にのみ還元され得るものではない。現在の私達の社会が、自由に使い捨て可能な労働力として釜ヶ崎の、そして山谷、寿などの寄せ場労働者を必要とする限り、流動的単身労働者の監視—管理機構としての、あるいは巨大独占資本の労務統括機構としてのドヤはその本質をかえることはないであろう。問題は現在の社会のあり方そのものに関わっているのである。とは言え、問題をすべてその基底に還元して「納得」しても何の役にも立たない。まずは、わずかでも労働者の日々の苦痛が軽減されるべきである。それゆえ、行政当局やドヤ主に対する闘いがしつように続けられねばならない。

そうした闘いのために、この調査データが少しでも利用できればと願っている。しかし本報告自身はきわめて不十分で部分的なものである。分析の視角、データの読み取り方等において多くの誤りがあるであろう。そこで、この報告の最後に生の調査データを最小限度のコーディングを施しただけで、そのまま発表する。多くの読者が自ら分析されることを。



## 1985年「E」アンケート

[No.]	[Q1]	[Q2]	[Q3]	[Q4]	[Q5]	[Q6]	[Q7]
1	8500	1500	30	-1	-1	1000	-1
2	-1	1000	30	0	-1	500	1
3	8200	1400	30	-1	-1	-1	1
4	8000	1300	45	7	9000	0	-1
5	11000	1050	20	10	-1	500	1
6	8000	1400	20	10	-1	1000	0
7	8000	1500	30	10	-1	-1	-1
8	-1	1400	45	7	9800	-1	-1
9	12000	1600	30	-1	-1	-1	-1
10	18000	1500	40	3	4500	1000	0
11	-1	-1	30	7	7700	700	1
12	9000	1600	30	10	16000	800	0
13	8000	1500	30	30	45000	1000	1
14	-1	1000	15	10	10000	-1	-1
15	8000	400	10	7	2660	750	-1
16	8500	900	35	6	5400	700	0
17	9000	700	40	-1	1200	0	-1
18	8000	-1	30	15	-1	-1	-1
19	8000	1400	30	-1	-1	700	1
20	8000	500	30	10	5000	0	-1
21	8000	400	10	10	10000	0	-1
22	8000	1000	30	10	8000	-1	-1
23	8000	1600	25	10	16000	900	0
24	8500	550	10	15	-1	500	-1
25	-1	800	10	-1	-1	-1	0
26	8000	900	30	-1	-1	-1	-1
27	8000	480	10	-1	-1	-1	1
28	8000	1200	20	7	6000	700	0
29	-1	1200	20	10	12000	1000	1
30	-1	1600	15	7	-1	600	0
31	8000	1300	50	10	13000	800	1
32	8000	1500	30	10	15000	-1	-1
33	8000	1100	45	-1	-1	99999	1
34	8000	-1	-1	10	-1	-1	1
35	7500	500	10	15	4800	99999	1
36	12000	1500	30	15	30000	1000	1
37	8000	750	-1	10	7500	500	0
38	8500	850	15	-1	-1	1000	0
39	8000	600	10	10	5000	0	0
40	8000	780	25	10	7800	500	1
41	8000	500	10	10	5000	0	0
42	8000	1200	20	10	12000	-1	0
43	8000	850	15	-1	-1	-1	-1
44	7000	1500	20	-1	-1	500	1

\*\*\* トマアツケ-ト (1985) \*\*\*

[No.]	[Q1]	[Q2]	[Q3]	[Q4]	[Q5]	[Q6]	[Q7]
45	8000	850	20	1	-1	500	0
46	8000	1500	60	10	17000	1000	0
47	8500	750	15	10	9500	600	-1
48	8000	500	30	-1	-1	99999	-1
49	10000	900	45	-1	-1	900	-1
50	8000	-1	30	-1	-1	-1	-1
51	8000	850	20	7	-1	0	0
52	10000	600	20	-1	-1	0	-1
53	8000	1200	20	5	4000	700	1
54	-1	950	25	7	-1	-1	-1
55	9000	1100	20	10	11000	-1	0
56	8000	1100	20	-1	-1	1000	-1
57	8000	330	10	1	330	0	0
58	8500	800	30	10	8000	700	0
59	8000	700	15	-1	-1	600	0
60	8500	800	15	1	800	-1	1
61	-1	850	20	10	8500	0	1
62	8200	1600	20	-1	-1	1500	-1
63	12000	400	10	10	4000	0	0
64	-1	900	20	15	13500	700	1
65	8000	1500	30	6	4800	700	-1
66	8000	750	20	10	6500	99999	0
67	8200	1000	15	15	6000	800	0
68	8000	1000	10	10	8000	0	0
69	8000	1000	20	10	10000	500	1
70	11000	1500	30	-1	-1	1000	1
71	8200	1000	30	10	10000	-1	-1
72	11000	1700	30	20	34000	1000	0
73	8000	700	20	-1	-1	99999	0
74	8000	700	15	7	4200	500	-1
75	8000	1500	20	3	3000	99999	0
76	8000	700	20	7	2800	350	1
77	8000	900	20	-1	-1	-1	1
78	8000	900	25	-1	-1	0	0
79	8500	1700	25	-1	-1	1000	1
80	8500	370	10	5	1850	0	0
81	10000	370	10	5	1850	0	0
82	8000	-1	45	10	13000	-1	-1
83	-1	1500	45	10	15000	99999	-1
84	8000	-1	30	10	-1	-1	-1
85	8000	800	30	10	-1	0	-1
86	-1	750	30	5	3750	-1	-1
87	8000	850	10	10	8000	800	1
88	8500	1300	20	5	5000	800	-1

\*\*\* トリヤアンケート (1985) \*\*\*

[No.]	[Q1]	[Q2]	[Q3]	[Q4]	[Q5]	[Q6]	[Q7]
89	9000	2200	30	7	14000	1000	0
90	8000	400	10	20	8000	0	0
91	7000	1400	20	15	21000	800	0
92	8000	700	20	30	20000	0	0
93	10000	650	10	10	6500	0	0
94	8000	900	20	5	4000	500	0
95	8000	750	30	7	5600	-1	0
96	12000	700	30	10	7000	0	0
97	8000	750	30	5	4000	-1	0
98	11000	800	20	10	-1	0	0
99	9000	700	10	-1	-1	-1	-1
100	8000	950	30	10	9500	500	1
101	8000	1200	30	15	-1	800	0
102	-1	700	20	7	-1	-1	-1
103	8000	700	30	7	5600	-1	1
104	8000	1600	20	7	3500	800	-1
105	8000	600	20	6	3600	0	0
106	6500	1000	10	3	2500	600	0
107	8000	700	-1	12	9000	-1	-1
108	8000	600	10	10	14000	0	0
109	10000	600	15	10	-1	0	-1
110	8000	550	10	-1	-1	0	0
111	8000	550	10	10	14000	-1	-1
112	8000	600	10	-1	-1	400	0
113	9000	600	20	7	4200	450	1
114	8000	600	10	20	12000	-1	-1
115	8000	900	30	8	7200	99999	1
116	8000	600	10	5	3000	99999	1
117	8000	1500	45	-1	-1	-1	-1
118	8000	1700	25	10	8000	-1	1
119	8000	-1	20	-1	-1	-1	1
120	8000	1600	30	7	9800	1000	1
121	10000	1500	30	8	12000	0	0
122	8500	1500	30	10	14000	1000	0
123	8000	1500	30	-1	-1	1200	0
124	10000	1600	20	-1	-1	1000	0
125	11000	900	30	10	9000	0	1
126	12000	900	30	7	5950	0	0
127	8500	900	20	20	30000	0	0
128	8000	900	20	7	6300	700	0
129	8000	1300	30	10	13000	1000	0
130	8000	900	25	-1	-1	0	0
131	9000	1400	30	-1	-1	700	0
132	8000	1500	30	7	10500	1000	0



\*\*\* トマヤアンケート (1985) \*\*\*

[No.]	[Q1]	[Q2]	[Q3]	[Q4]	[Q5]	[Q6]	[Q7]
133	8000	500	10	10	5000	0	0
134	8000	500	10	10	5000	400	0
135	8500	500	10	7	3500	0	0
136	8000	500	10	10	4500	-1	-1
137	-1	500	10	8	3600	0	0
138	9000	500	10	-1	-1	0	0
139	8000	500	10	-1	-1	-1	-1
140	8000	600	10	10	10000	500	0
141	8000	550	20	-1	-1	500	0
142	9000	600	10	7	6000	500	0
143	8500	550	10	7	3850	0	1
144	9500	550	10	-1	-1	-1	0
145	8000	500	15	10	5000	0	1
146	8000	550	10	8	4640	99999	1
147	8000	900	30	10	-1	0	0
148	9000	800	20	7	5000	500	-1
149	7000	550	10	15	18000	-1	1
150	-1	600	10	-1	-1	0	-1
151	8500	1200	30	10	12000	99999	0
152	10000	1700	30	7	10500	1200	0
153	8000	1500	30	10	-1	99999	1
154	8000	1800	30	7	12600	1000	0
155	11000	1400	30	15	22500	0	0
156	-1	1500	30	1	1500	800	-1
157	10000	1600	30	10	16000	99999	0
158	8200	1600	35	-1	-1	0	1
159	12000	1600	30	-1	-1	-1	-1
160	9500	1500	10	-1	-1	800	0
161	8000	2100	25	10	19000	1200	1
162	8000	900	10	10	-1	-1	1
163	8000	1000	15	-1	-1	500	0
164	9000	1500	30	10	15000	99999	-1
165	9000	1350	30	20	25000	1000	0
166	8000	1600	35	-1	-1	0	0
167	11000	1700	30	-1	-1	-1	0
168	9500	1600	30	10	16000	1000	0
169	12000	1600	45	10	-1	1400	0
170	8500	1000	20	14	21000	99999	0
171	8000	1200	20	7	-1	800	-1
172	8000	1000	15	-1	-1	0	0
173	-1	1600	30	-1	-1	0	-1
174	8000	1100	15	15	13500	500	0
175	12000	1100	15	10	9000	500	0
176	10000	1800	40	15	19500	1500	-1

\*\*\* トキアアンケート (1985) \*\*\*

[No.]	[Q1]	[Q2]	[Q3]	[Q4]	[Q5]	[Q6]	[Q7]
177	8000	750	30	-1	-1	-1	-1
178	8500	1300	30	10	-1	800	-1
179	8000	550	10	-1	-1	0	1
180	8000	800	13	10	-1	0	0
181	10500	900	20	-1	-1	0	0
182	5000	750	30	2	2000	500	1
183	11000	700	10	-1	-1	99999	0
184	8000	600	45	5	3000	0	1
185	8000	600	40	-1	-1	0	1
186	8500	1600	40	10	15000	1500	1
187	11000	1700	30	5	3000	1000	0
188	-1	1500	60	-1	-1	-1	-1
189	-1	1700	60	10	16000	1000	-1
190	8000	900	10	2	1800	400	-1
191	8000	1200	20	10	12000	99999	0
192	9000	1300	30	10	13000	0	-1
193	8000	600	10	-1	-1	99999	0
194	8000	1400	20	15	22500	-1	0
195	14000	1400	-1	15	21000	1200	0
196	8000	850	20	7	-1	500	0
197	8000	2000	30	7	14000	800	1
198	8500	1000	30	7	7000	500	1
199	8000	1000	30	-1	-1	0	0
200	8000	1200	20	-1	-1	600	0
201	8000	700	15	5	-1	99999	0
202	8000	-1	30	-1	-1	0	0
203	12000	1200	15	7	4200	0	0
204	11000	1000	30	10	26000	700	0
205	8000	2000	25	18	59400	1500	0
206	10000	1200	30	10	12000	-1	-1
207	8200	1500	20	7	-1	750	1
208	6000	1500	30	7	8400	0	1
209	-1	1500	30	-1	-1	-1	-1
210	8000	1500	30	15	22500	1200	0
211	9000	1500	30	7	5950	1000	0
212	11000	1500	30	10	4500	1200	0
213	11000	1500	25	7	10500	1000	0
214	8000	1500	30	7	10500	1000	1
215	-1	1500	30	20	30000	1200	-1
216	-1	1400	30	-1	-1	800	-1
217	8000	900	10	6	5400	0	0
218	12000	900	10	-1	-1	0	-1
219	8000	1000	10	7	5600	400	0
220	8000	1000	20	20	20000	500	0

\*\*\* トマヤアンケート(1985) \*\*\*

[No.]	[Q1]	[Q2]	[Q3]	[Q4]	[Q5]	[Q6]	[Q7]
221	8000	1200	20	10	15000	800	1
222	8000	1200	20	4	7500	99999	0
223	10000	1800	30	7	10500	1000	1
224	11000	1500	30	15	-1	1000	0
225	8000	1100	10	10	7500	0	0
226	8000	1000	10	10	11000	700	1
227	12000	1600	30	20	34000	0	0
228	12000	-1	30	20	32000	-1	-1
229	7500	1600	30	10	16000	-1	0
230	8500	1600	30	10	15000	1000	1
231	-1	1600	15	10	11000	700	-1
232	9000	2000	30	5	10000	1300	0
233	9500	850	10	13	16900	750	0
234	8500	2000	30	-1	-1	99999	-1
235	8000	900	-1	5	-1	-1	0
236	8000	850	30	1	-1	0	1
237	8000	800	30	10	-1	99999	1
238	-1	1300	20	-1	-1	1000	-1
239	8500	1000	20	10	10000	-1	-1
240	8000	850	20	-1	-1	0	-1
241	8000	1100	35	7	7700	500	1
242	8500	550	20	10	5500	0	0
243	8000	-1	30	12	18000	99999	-1
244	14000	2500	-1	12	-1	-1	0

(注一) 最初にも述べたように、調査結果はそのすべてが整理がすすんでいるわけではない。それゆえ、以下のデータもその一部分である。残りの部分も整理が済みしだい順次本資料集で発表する予定である。

(注二) コーディングについて

N. A. その他はすべての項目において“-1”としてある。[Q7]の“1”は「トラブルの経験あり」を、“0”は「なし」をあらわしている。[Q6]の“99999”は、ただ「高過ぎる」とのみ答えて「妥当と思うドヤ代」を具体的に挙げていない回答である。